

【高齢者の生きがい】

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

(8) 日常生活とリスク

今の世の中に愛想を尽かす人もいると思うし、そのような心境の人もいます。この世の中に信じていることがあるのか、愛情を感じることもあるのか、毎日が楽しく思って生活することができるのか、人を信用できるのか、社会を信用できるのか、地域を信用していいのか、家族を信用して問題ないのか、子どもをどこまで信用できるのか、配偶者を本当に信頼できるのかなど、考えれば考えるほど難しくなり、真に生きるための誠とは何かを考えてしまう人が多くいるような気がします。逆に考えないようにしている人も多く周りにはいるような気がします。

何かに頼ることができれば心が楽になるように、思うようになった人が多くいるような気がします。人が歩んだ道はどんなものなのか、どんな気持ちで生きていったのか、高齢者の心に楽しい時間が存在しそれを感じて生活したのか、人との情をどう理解したのか、助け合う社会がどう個人に関わったのか、家族等の思いやりが感じる事ができたのかなどいろんなことが頭を駆け巡ります。その結論がどうかを感じることなく生きてるのが現実だと思います。

人は基本的には一人で生きていく力を持っていると思いますが、その力は逆に人との関係が必要であり、その活かし方に何かがあると思います。現実には社会があつてその中において生かされているのですが、その現実を理解できないようになってきているのも現実です。一番必要な強さは、一人で多くのことが出来ることが大切であり、そのことが強く生きていくことの必要条件ですが、なかなか現実にはできないのが普通です。そのような社会づくりがされてきたことを理解することも必要です。生活目標の最低限は、人に迷惑をかけることのない人生を送ることに尽きると思います。そのことを現実化することは、中々難しいことであると思いますし、その中身の問題においてもいろいろと感じます。

何がベターなのか、何を注意するのか、どんな情報が必要なのか、どんな付き合い方が必要なのか、上手な生き方の人とはなにか、何か自分のために得をすることなのか、楽しいことに会うチャンスが多くあるようにすることはどんなことか、考えれば多くありますが現在の必要性、今後の必要性、そのことを理解できる情報が欲しいのが現実です。大切な時間との付き合い方を考えると、高齢者にとっての時間の大切さ、ひと時でも粗末にできないものであり、上手に使用し、いつも自分が自分らしく輝いている人生を送ることの大切さ、有意義な生き方を追求することで何かが見えるような気がします。